

軌道交通 4 車線を連携させた公共交通網の整備促進について（継続）

現在の交通インフラ整備につきましては、主に道路整備に重点が置かれているのが実状ですが、将来の桐生市の存続・発展を考えた場合、鉄道網の整備が必要不可欠であると考えられます。

幸いにも桐生市には、ＪＲ・東武鉄道・上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道の４線が乗り入れており、県内においてＪＲと私鉄が交差する市は数市しかないという恵まれた環境にあることから、これら４線を合流させた新駅をＪＲ東日本下新田車輛基地付近に建設することは、桐生市の都市機能を向上させ、経済発展並びに観光客誘致等による活性化につながることをと思われます。

以上の理由により、これらを含めた公共交通網の整備促進につきましての調査・研究を推進されることを切望いたします。

【桐生市からの回答】

本市は、ＪＲ両毛線、東武鉄道、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の４つの鉄道と 15 の駅によって形成され、恵まれた交通環境にあります。鉄道は大量輸送が可能であり、安全性・定時性に優れ、地球環境に優しい輸送機関として、通勤・通学やまちづくりなどに重要な役割を果たしております。

また、鉄道駅を繋ぐ二次交通として、おりひめバスがＪＲ桐生駅及び東武鉄道新桐生駅を拠点として、12 台（うち 1 台は予備車）のバス車両で市内 7 路線を運行しております。新里地区及び黒保根地区においては、それぞれデマンドタクシーが運行されております。

このような中、少子高齢化が進む本市では、鉄道を利用しやすい、駅を中心としたコンパクトな都市形成を図る必要があり、将来の本市の発展には、市内を運行する乗合バスなどとの役割を明確にしながら接続性を向上させるとともに、交通・都市計画・観光行政などが一体となった公共交通体系を構築する必要があるものと考えております。

なお、４つの鉄道を合流させた新駅につきましては、都市機能の向上や本市の活性化につながる大変有効な施策ではありますが、莫大な財政負担を伴うことでもあり、将来の大きな構想として、調査・研究してまいりたいと考えております。

【回答担当】総合政策部広域連携推進室広域連携推進担当